

リエゾン「繋ぐ」シニアが、静岡市のまちづくり支援で大活躍

■静岡市の様々な活性化事業で活躍中の百瀬さん

今月号で紹介するのは、静岡市の「中心市街地の活性化事業」を皮切りに、市が推進する高齢者就労や中小企業支援、地元インフラ企業のCSR活動や不動産会社の空き家リノベーション事業まで、多方面で静岡市のアドバイザーとして活躍中の百瀬伸夫さんです。今年70歳を迎えた百瀬さんの繋ぐ活動は、長年培ってきた経験・人脈と謙虚なお人柄があつてのこと。様々な人との出会いを通じて、新たな付加価値を創造するロールモデルとして、ご紹介したいと思います。

■まちづくりアドバイザーとして現場主義を貫く百瀬さんの歩み

百瀬さんは、販促会社で「ディスプレイの達人」として頭角を現し、35歳から大手広告代理店で「空間ビジネス」という新境地を切り開き、会社員としての最後は大手菓子メーカーの新規プロジェクトを担当しました。59歳で退職し、2011年に独立を果たしますが、専門の空間ビジネスからまちづくりへと領域を広げる中で、「中心市街地活性化」の再勉強を重ね、「地元の悩みに寄り添う現場主義」の大切さに気付いたと言います。

そんな百瀬さんが、初めて静岡市と繋

がったのは、2013年。「市の活性化提案」が当時の経済局の課長だった松浦高之さん（その後、静岡市企画局長等を歴任）の目に留まったことがきっかけになりました。市を代表する呉服町名店街の活性化プロジェクトでは、週2回東京から商店街に向かい、店主や買い物客の要望を集めました。こうした取組の結果、「まちづくり」と「商業活性化」とを併せ持つアドバイザーは、市の関係者や名店街理事長の高い評価を得ました。



百瀬伸夫さん

■静岡市での支援活動の拡がり

そんな百瀬さんを松浦さんが市役所の各部署に紹介することで、百瀬さんの支援活動は大きな拡がりを見せました。「Next Work しずおか」での高齢者就労促進の取り組みや、新現役交流会による中小企業への人材マッチング支援。

更には地元TOKAグループのCSR事業として「シェアサイクル事業」。また、空き家リノベーションによる「まちなかテレワーク事業」など多岐にわたります。

松浦さんは百瀬さんについて、「百瀬さんの魅力は、『人徳・知識・人脈』の3つです。謙虚な人柄を慕う市役所職員は多く、気軽に相談できるオアシスになっているようです」と語ってくれました。次号では、百瀬さんの「新現役交流会」の取り組み支援を紹介します。

池口武志（いけぐち・たけし）

一般社団法人定年後研究所理事長

1963年生まれ。1986年日本生命保険相互会社入社。現在、株式会社星和ビジネスリンク取締役常務執行役員、キャリアコンサルタント（国家資格）としても活動中。



一般社団法人定年後研究所

人生100年時代の中で、中高年社員のセカンドキャリアの充実に向けた調査活動を展開中。定年前後の自走人生にチャレンジする会社員と、それをサポートする企業を応援。当記事へのご意見ご感想を、ポータルサイト <https://www.teinengo-lab.or.jp>「お問い合わせ」にお寄せください。